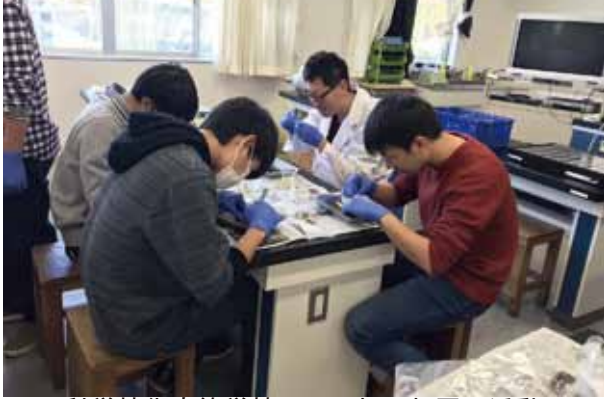


駿河ほねほね団活動報告

萬屋由香子・佐々木彰央



科学技術高等学校でのほねほね団の活動

萬屋由香子

昨年10月から参加させていただいています。10年ほど前に福井市自然史博物館で活動していたことがあり、久しぶりにほねほね活動に参加する機会を得て、毎月楽しみにしているところです。

11月の活動日は冷凍庫の整理と新たな作業場の下見を行いました。まずは大型のフリーザーに入っているものをすべて出し、種名とデータを確認、必要なものにはデータを書いた紙を添付し、大まかな分類群ごとにまとめてフリーザーに再び戻す作業を行いました。次々と出てくる両生類、爬虫類、哺乳類などなど、様々な動物を前に飽きることなく作業は進みました。個人的に気になったのは、冷凍庫にねおる貴重なトガリネズミやミズラモグラ、数の豊富なアカネズミやヒメネズミたち。学生時代からモグラ類、ネズミ類を扱ってきた私にとって、宝の山に見えました。その後、車に乗り合わせて新しい作業場の下見に出かけました。場所は静岡市の藁科地区ということで、現地到着まで時間はかかりましたが、豊かな自然環境と古いながらも立派な古民家を目前にして、団員のみなさんがその場所をどんな風に活用できるか考え、いろいろなアイデアが出ていたのが印象的でした。

12月は企画展のイベント「サメの3Dプリンター標本に色を塗ろう」の補助でしたが、私は残念ながら参加できませんでした。

科学技術高等学校の一室をお借りした1月の活動日には、ほねほね団の活動に興味があるという生徒のみなさんを交え、アカネズミとヒメ



ネズミの頭骨での識別のポイントを調べる

ネズミの頭骨での識別ポイントを実物で観察した後、それら2種の骨格標本作製を中心に行い、皮の標本を作ってみたいという女子生徒の方々には仮剥製をつくってもらいました。仮剥製とは、皮に綿のみを入れて縫い合わせる標本のことです。展示に使用される本剥製は生きた姿を再現する一方、仮剥製はそれに比べて製作の手間がかからず、保管スペースも少なく済むことから、数が多くなる小型哺乳類の保管用の標本としてよく用いられます。生徒さんたちは、剥皮も丁寧で、綿を入れて縫い合わせる作業もスムーズにこなし、はじめてにもかかわらず完成度の高い仮剥製が出来上がり、非常に感心しました。私自身はアズマモグラの仮剥製と頭骨標本作製したのですが、剥皮の難しい尾の皮を破ってしまい縫い合わせて補修したり、頬骨を壊してしまったりと満足のいくできではなかったため、今回はこれを生かし乾燥や腐敗など動物の状態を見極めながら作業を進めたいと思います。

佐々木彰央

12月の活動は佐々木が報告します。22日と23日に団員と共に講座を実施しました。内容はサメの模型に色を塗ってもらい、サメについて学んでもらうというものです。模型はモデリングソフトを使い造形し、3Dプリンターで出力したものを使用しました。約100組の家族連れに参加していただき、たくさん色鮮やかな模型が完成しました。団員が参加者のサポートをおこない、賑やかで楽しい雰囲気のなかで講座を終えることができました。参加者からのアンケートには大変楽しんでいただけた旨の回答が多く書かれていました。